

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	介護職員のレベルアップ(介護福祉士資格取得)のための教育プログラム		
法人名	学校法人コア学園		
学校名	飯田ゆめみらいICTカレッジ		
代表者	理事長 楨原 英勝	担当者 連絡先	橋本勝行 TEL:0265-22-5111

1. 事業の概要

一昨年、厚生労働省より介護職員の全体的なレベルアップを計り、資格による格差を是正するため、『いずれ介護職の基本就業条件を介護福祉士(ケアワーカー)に統一する』という考えが発表された。これを受け、南信州地域の各施設でも介護職員に対し、介護福祉士の資格取得を促す動きが顕著なものとなりつつある。実際に介護福祉士の資格取得者に対する待遇面の向上といった対応を行っている福祉施設も複数あり、昨年度実施の事業からも、介護職員の間で介護福祉士の資格取得に対する意識が非常に高まっている状況がうかがえた。また、平成25年の試験より国家試験に加え、600時間のリカレント教育を受けることが義務付けられ、就業をしながらの資格取得がさらに難しくなるといった点からも、できるだけ早い段階で受験資格を満たし、介護福祉士を取得したいといった声も多くなっている。

また、この南信州地域は慢性的な介護職の人材不足が続いており、介護の仕事を一時的なものではなく、資格を取得をすることで自分自身や介護の仕事に誇りをもち、介護業務のプロフェッショナルになるといった人材の育成が必要となっている。この南信州地域でも全国的に見られるような、目標や働きたい職業が見つからず早期退職する若年者や地元を離れてしまう若者が多く、そのような若者に、今後も需要が益々高まっていくであろう『介護』の仕事へ従事する機会作り地域をあげて取り組んでいく必要がある。このような面からも、今回の事業ではただ、介護福祉士の資格取得を目標とするだけでなく、昨年に引き続き、カウンセリングの中で資格を取得した後、どのように実際の仕事へ活かしていくかといった、就業に対する意識の面でもサポートを行っていく。

また、更に介護従事者自身のスキルアップに対する意識を高めるために、新たに『介護職スキルアップセミナー』もカリキュラムに加えている。

昨年度、実施した際、定員32名のところ、50名もの応募があり、地域における当事業への関心は非常に高いものがある。合格率の面でも全国平均51.3%のところ、89.2%であり、南信州地域の福祉施設からの実施の要望も多いことから、より人材の育成といった点を重視し、『介護職員のレベルアップ(介護福祉士資格取得)のための講座』を実施する。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

筆記試験結果(平成21年1月25日実施)として、

(a)実技試験免除者(介護技術講習修了者) 33名 結果待ち

(b)(a)以外の者(2月13日発表済み) 30名受験 17名合格(合格率56.7%)

という結果を得た。

昨年までと比較し、出題形式に大きな変化があったようで、戸惑う受講生が多かった。正しいもの、間違っているものを1つ選ぶといった形式が多く、内容を正しく理解していないと答えられない問題が多かったようであり、学習不足を痛感した方が多かった。初めて聞く言葉や知識を問われる問題もあったようで、テキストの内容の学習だけではなく、日頃から新聞やニュース等の福祉や介護に関する情報に関心を持つことが必要だと思われる。

3月末の最終発表では、昨年の総合87%には及ばずとも70%前後の好結果が出るものと期待しています。

②事業により得られた成果

今回は参加者多数のため、年齢および面接の結果を元に2グループでの開講となった。平均年齢は、全体では40.5歳であったが、30代の受講者が最も多く、次いで40代という結果になった。20代では受講者の多数が20代前半となっており、若年者の資格取得やスキルアップに対する意識の高さが伺えた。また、40代～50代では、全く違う職業から転職をし、介護経験5年未満の経験者の方の受講が多く、年齢など関係なく、新しい仕事に対する意欲の高さが見えた。

この講座は3ヶ月弱の長期にわたるもので、勤務のローテーション等事業所側の協力の上、受講できたという講座であったが、介護福祉士資格に対してだけでなく、職員の資格取得などのスキルアップや情報の交換、共有化を活発に行うといったような、働きやすい職場を作っていくといった活動において、事業所ごとの意識の差が大きいという現実がわかった。この事業を通して、人材を育成して地域に貢献するという当校の理念に基づき、今後もスキルアップセミナーや情報交換会等を設けることで、介護職で就業される方のサポートを積極的に行っていきたい。

③今後の活用

この講座は11月からの開講ということで、筆記試験まで3ヶ月弱というスケジュールになっているが、受講生のほとんどが、独自に学習をしていない“ゼロ”からの受講であり、講座開講後も、問題集の配布や先生による補助プリントの配布など、家庭での学習を促す教材は準備したものの、仕事や家事との両立の中での学習ということで、講座の時間以外での十分な学習ができた方は少なかったように思われる。そのため、こちらが考えていたより講座の中で全てを済ませようという考えの方が多く、各科目2時間という時間配分に物足りなさを感じてしまったようだ。次回は事前説明会を早目に実施し、ある程度基礎的な理解を得てから講座で仕上げや確認を行っていくといった流れを定着させていくことで、出題形式が多少変わっても対応できるような応用力を身につけていくようにしたい。

④次年度以降における課題・展開

今年度は昨年の2倍近いの64名での開講ということで、年齢、理解度など、受講生の状況も多岐にわたったことから、授業の進め方やペースなど、難しい部分も多かったように思われる。

また、筆記試験の出題形式が、昨年までと大きく変わった点での影響が大きく、各科目の内容をしっかりと理解するというより、問題の解き方に偏って学習を進めた受講生には、非常に取り組みにくい内容となったようである。受講生の中には、『講座の中で学習を済ませる』といった意識の者も多く、家庭での学習が全くできず、全体的な学習時間が不足してしまった傾向も見られた。今後は、講座以外での学習の促進と、それを可能にする環境づくりに配慮していく必要がある。

今回の講座は3ヶ月弱の長期にわたるもので、勤務のローテーション等事業所側の協力の上、受講できたという講座であったが、介護福祉士資格に対してだけでなく、職員の資格取得などのスキルアップや情報の交換、共有化を活発に行うといったような、働きやすい職場を作っていくといった活動において、事業所ごとの意識の差が大きいという現実がわかった。この事業を通して、人材を育成して地域に貢献するという当校の理念に基づき、今後もスキルアップセミナーや情報交換会等を設けることで、介護職で就業される方のサポートを積極的に行っていきたい。

3. 事業の実施に関する項目

①履修証明書等

介護福祉士資格取得のための対策講座という位置づけなので、履修証明書は発行していません。

②カリキュラムの内容

科目(教科)	科目概要(単元)	時間
学科試験対策	<ul style="list-style-type: none">・社会福祉概論・老人福祉論・障害者福祉論・リハビリテーション論・社会福祉援助技術・レクリエーション活動援助法・老人・障害者の心理・家政学概論・医学一般・精神保健・介護概論・介護技術・形態別介護技術	29
模擬試験	<ul style="list-style-type: none">・模擬試験(基礎編)・模擬試験(実力編)・模擬試験解説	16
実技試験対策	<ul style="list-style-type: none">・実技試験対策講習・模擬試験	16
	計	61

③講座の実施

・Aグループ

回	月日	曜日	時間	科目
1	11月4日	火	18:30~18:50	※オリエンテーション
			18:50~20:20	社会福祉概論①
2	11月6日	木	18:30~20:00	社会福祉概論②
3	11月11日	火	18:30~20:00	老人福祉論①
4	11月13日	木	18:30~20:00	老人福祉論②
5	11月18日	火	18:30~20:00	障害者福祉論①
6	11月20日	木	18:30~20:00	障害者福祉論②
7	11月25日	火	18:30~20:30	リハビリテーション論
8	11月27日	木	18:30~20:30	社会福祉援助技術
9	12月2日	火	18:30~20:30	レクリエーション活動援助法
10	12月4日	木	18:30~20:30	老人・障害者の心理
11	12月9日	火	18:30~20:30	家政学概論
12	12月11日	木	18:30~20:30	医学一般
13	12月16日	火	18:30~20:30	精神保健
14	12月18日	木	18:30~20:30	介護概論
15	12月24日	水	18:30~20:30	介護技術
16	12月25日	木	18:30~20:30	形態別介護技術
17	1月10日	土	10:00~15:25	模擬試験(基礎編)
18	1月13日	火	18:30~20:30	模擬試験(基礎編)解説
19	1月17日	土	10:00~15:25	模擬試験(実力編)
20	1月20日	火	18:30~20:30	模擬試験(実力編)解説

・Bグループ

回	月日	曜日	時間	科目
1	11月5日	水	18:30~18:50	※オリエンテーション
			18:50~20:20	社会福祉概論①
2	11月7日	金	18:30~20:00	社会福祉概論②
3	11月12日	水	18:30~20:00	老人福祉論①
4	11月14日	金	18:30~20:00	老人福祉論②
5	11月19日	水	18:30~20:00	障害者福祉論①
6	11月21日	金	18:30~20:00	障害者福祉論②
7	11月28日	金	18:30~20:30	リハビリテーション論
8	12月3日	水	18:30~20:30	社会福祉援助技術
9	12月5日	金	18:30~20:30	レクリエーション活動援助法
10	12月8日	月	18:30~20:30	老人・障害者の心理
11	12月10日	水	18:30~20:30	家政学概論
12	12月12日	金	18:30~20:30	医学一般
13	12月17日	水	18:30~20:30	精神保健
14	12月19日	金	18:30~20:30	介護概論
15	12月24日	水	18:30~20:30	介護技術
16	12月25日	木	18:30~20:30	形態別介護技術
17	1月10日	土	10:00~15:25	模擬試験(基礎編)
18	1月13日	火	18:30~20:30	模擬試験(基礎編)解説
19	1月17日	土	10:00~15:25	模擬試験(実力編)
20	1月21日	水	18:30~20:30	模擬試験(実力編)解説

④支援対象者(受講者)の状況

13科目という範囲の広さからも、一体どこから手をつけて良いかがわからないといった意見が多く、講座前は、ほとんどの方が一人で学習することへの不安を感じているようであった。

今回の講座では、参加者の年齢的な幅もあり、ペースや進め方など、難しい点多かった中、補助プリント等を使用し、重要ポイントを明確にすることで、わかりやすく、効率的な学習ができたと思われる。また、同じ目標に向かって勉強する仲間がいたことに励まされたという意見も多く、この講座が受講生の精神面での支えにもなったようである。